

平成27年度 地域と学校パートナーシップ事業運営協議会 委員意見要旨

- 開催日時 平成27年8月10日 午後2時～
- 出席委員 井浦博男委員, 春日雅子委員, 上澤田誠委員, 河内一美委員, 倉島陽子委員, 種村幸夫委員, 田村篤委員, 藤井武夫委員, 三保恵美子委員, 森泉哲也委員

【意見】

- 三保 ・コーディネーター研修会について、研修会では何を実施したか。
- 森泉 ・資質の向上について、コーディネーターからの要望はあるか。
・今後の推進の課題。
- 河内 ・延べボラのうち、安全見守り以外の割合が増えているか。
・経年変化（全体的な質の変化）を出してはどうか。
- 藤井 ・P16 アフターか。
- 河内 ・P17 低所得者対象はどうなっているか。
北区・東区・西区等、でH25年はやっていたようだが。
- 春日 ・ドリームプロジェクトは、使途の指定はあるか。
・何年間とかあるか。
・指定校に新しい学校は入っているのか。
- 森泉 ・備品もOKか。
- 春日 ・社協も類似の補助金あり。社協のものとドリプロ校が重複する。
- 森泉 ・二重でもらっているのか。
- 井浦 ・世代交代を順次していった方がよい。2～3人体制にしてはどうか。
・多忙感について、あちこちで呼ばれ、どの活動が勤務になるか判断難しい。
勤務時間数を増やせないか。
・土曜学習について、サポーターの謝礼が2Hで1,000円で少なく、交通費にも満たない。学生と先生が交流する場を設けてほしい。
- 種村 ・土曜学習にかかわっている者は大変な思いをしている。校長の理解が大切だ。
・マスコミ（広報）について、心配いらぬ。パートナーシップ事業は人気がある。
- 森泉 ・「2名体制にする」と決定できないか。
・学校規模で人数指定あるか。
- 井浦 ・複数のほうがよいのではないかということ。
- 河内 ・コーディネーターの人数について、P6にあるが2名以上にしなさいは現場ではどうか。校長のリーダーシップは大切だ。
・校内体制の確立について、パートナーをつないでいく教職員を育てる。
・地域の専門的な技術をどうとり入れるかは教職員が必要。
- 上澤田 ・研修が手厚い。主旨理解はすすんでいる。

学校現場としての組織面の確立は必要。

- 倉島
- ・現在2人体制。自然と役割分担できている。
 - ・2人体制もよい。組み合わせも大事だ。年代や性別を変えるのもよい。
 - ・中学校のコーディネーターと連携が重要。
- 森泉
- ・地域に出していくことも大事。地域の教育力の up。
- 田村
- ・P6 公民館との連携により、多忙化解消が図られたことがある。
- 藤井
- ・地域によって温度差はあるが、コーディネーターと学校のつながりを大切にする必要がある。ボランティアが来た時、教職員がきちんとあいさつするなど、つみあげ大事。
- 河内
- ・コーディネーターの勤務年限について、どこまで願いますか。
 - ・教職員が7年までなので、7年をこえるのはどうかという意見も以前あった。
 - ・ドリプロ、金銭的支援で充分であり、助言があるとより良い。
 - ・HPに実施校がのっているが広がらない。
- 井浦
- ・十分なコーディネーター研修が行えていない。じっくりやりたい。会場設営検討してほしい。
 - ・他の学校が何をやっているか知れる研修会にしてほしい。
- 春日
- ・各区ボラセンターがある。ボラコーディネーターという職員がいる。ぜひ連携してほしい。
- 三保
- ・学社民の融合指導主事と一緒に研修を行い、お礼を述べたい。